**長期ビジョン審議会答申「ひょうごビジョン 2050（案）」 手交式 概要**

日　時：令和４年２月２日（水）11：35～11：50
場　所：知事応接室（兵庫県庁２号館６階）
出席者：【長期ビジョン審議会】
　　五百旗頭会長（ひょうご震災記念 21 世紀研究機構理事長、兵庫県公立大学法人理事長）
　　【兵庫県】　齋藤知事、坂本県参事（ビジョン担当）
　　陪席：城谷ビジョン局長、木南ビジョン課長（司会）
概　要：

司会）これより長期ビジョン審議会答申「ひょうごビジョン 2050 案」の手交式を行います。まず、同審議会の五百旗頭会長より答申を知事に手交いただきます。会長、よろしくお願いします。

会長）令和２年７月 21 日付諮問第 29 号で諮問のあったことについては、審議の結果、別添「ひょうごビジョン 2050 案」のとおり答申いたします。県は、県民が共有する兵庫のめざす姿を示すこの答申に基づき、大きな社会変化の中で進める兵庫づくりの羅針盤として新たな全県ビジョンを策定し、県民と力を合わせてその着実な推進を図られますよう希望いたします。

私が会長に就く前に若手の研究会で検討が始まり、3 年近くかけて検討をしてきたものですが、とてもよくできていると思います。ポイントは、年齢、性別、障害のあるなしに関わらず、すべての人が個性を持って自分らしく生きられる社会という人間尊重の思想が根幹にあって、それが繰り返し出てくる、基調低音となっている、ということ。また、五国を持つ兵庫の伝統、多様性、開放性といったことを強調したものになっているということだと思います。

冒頭に「地球からの警鐘」とあるように、この時代の危機的様相を受け止め、その対応には科学技術の伝統をしっかり活かしていかないといけないし、兵庫はこれを築いてきたと思います。それから芸術文化、心豊かな県民生活、また緑豊かな環境といった兵庫の伝統をもとにして、これを展開していく契機を重視したものとなっています。今問題の地球の生態系、緑の公益的機能なども強調されていて、地球からの警鐘を受けて、水素を中心としたクリーンエネルギーをはじめ、医療、健康、食など兵庫県らしい取組を期待したいと思います。特にコロナの中で課題となった、AI やデジタル技術など科学技術を活かした生き方の可能性や、よきコミュニティの中で一人ひとりが自分らしく人間として尊重されるあり方にも言及するといった現在的意味を持った報告でもあると感心しましたし、その意味で大変立派なものになっていると思います。ということで、知事に答申をお渡ししたいと思います。

（答申書を手交）

知事）ありがとうございます。コロナで集まって会議をするということが難しい状況ではありましたが、1年半にわたって審議を行い、このたび「ひょうごビジョン2050」という形で取りまとめていただいたことに改めてお礼を申し上げます。

内容を読ませていただきましたが、私自身が掲げている「躍動する兵庫」に向けての第一歩が踏み出せたと感じています。その意味で非常にありがたいと思っています。兵庫県は、都市だけでなくいろんな多自然地域があり、五国ということで大変多様性のある地域です。かつ、先ほど外資系企業の方と意見交換を行っていたのですが、県内には多くの外国企業、外資系企業が立地しており、その意味で、性別、障害の有無に加えて外国の方も含めて、本当に多様な方がおられる。その意味で、ダイバーシティ＆インクルーシブ、多様性と包摂、そうした社会を 2050 年に向けて兵庫県が作り上げていく、そして、そのことを兵庫から世界へ発信していく。このことが大事だと思いました。そうした意味で、このビジョンを羅針盤にして前に進めていければと思っています。

会長）多様性と包摂と言われました。今 SDGs が国連を中心にした世界の共通目標になっていますが、あれは元々ミレニアム開発目標として、20 世紀から 21 世紀になる頃に 15 年の目標として掲げられ、非常にうまくいったものです。世界の貧困人口を半分にするという目標を掲げて、これが実現しました。実現した理由は、世界中で開発が進んだというよりも、多くの貧困人口を抱えていた中国が急発展したということでしたが、それに勢いを得て、次の SDGs では世界の貧困人口をゼロにするという目標を掲げて、これはなかなかそう簡単には行かない、ということになっています。それはともかく「誰一人取り残さない」という「包摂」の主張が世界中の人々の心に響いている、その考え方がこのビジョンでも大事にされていて、SDGs 的な世界の大きな目標と兵庫県の目標、政策の羅針盤が一致しているということは、非常に意義のあることです。

知事）SDGs は、環境問題のみならず、あらゆる分野をカバーしていますね。

会長）17 ものゴールがあります。ただ、環境問題は特に、先日のトンガの海底火山の大噴火のようなことで寒冷化に向かうのではないかといった話もありますが、そんなことに期待するのではなくしっかり対応する必要があると思います。

兵庫でも水素などクリーンエネルギーの分野をリードして、これからの時代を突破していくような力強い動きが「躍動する兵庫」の中に表れてきてほしいですね。

だが、それを企業だけでやりなさいというのが難しい時代です。冷戦終結までは、日本の企業はイノベーションが盛んで非常に競争力も高かったのですが、今はお金が余っても、内部留保ばかりで、以前ほど研究開発を大事にしなくなった。そのために以前ほどの力がないということになっています。ここは思い切って戦略的にサポートするから頑張れと言わないとなかなか動かなくなっている。そのような状況なので、国もそうですが、県でも育てるということを是非応援していただきたいと思います。

知事）日本発のイノベーションが少なくなってきていますね。B to B の部品供給の世界ではまだよいと思うのですが、B to C の世界では、世界を席巻するようなイノベーション、新しいサービスや商品を打ち出せなくなっているというのは大きな課題です。

会長）バブルが弾けて不良債権処理に 10 年かかって、そのあと元のような豊かな競争力の状態に戻るかと思ったけれども、デフレマインドになってしまいました。そこをこれからもう一度、知事のリーダーシップのもとに前に進めていただきたいです。

それにしても検討作業では大変苦労をされたと思います。

知事）私も事務方と何度もやり取りをしました。

県参事）今回「包摂」に合わせて、躍動する兵庫ということで「挑戦」もクローズアップしました。チャレンジを重視し、特に若い方々がチャレンジしやすい社会をつくっていく、そういう土壌を作っていくということに力を入れたビジョンになっています。

会長）行財政審議会の方では、スクラップのリストはあるが、ビルドが少ないのではないかといったことも申し上げましたが、しかし、このビジョンは SDGs 的な展望のもとに「躍動する兵庫」という希望に満ちた方向性を示しています。問題は、これをどう政策化していくかですね。

知事）両方の審議会の会長に五百旗頭先生に就いていただいていますが、行財政改革の方ではまさに行財政運営のスクラップ＆ビルドのスクラップと、財政の見える化を進めています。ビルドの方は、このビジョンが一つのベースになると思っていて、このビジョンに基づいて令和 4 年度の予算の中にいろいろな取組を入れていく、その最終局面に今あるところです。そこの芽出しをきっちりして、スクラップ＆ビルドをしっかりやっていきたいと考えています。

会長）今からビルドの政策を出していくのは、ちょっと間に合わないのではないですか。

知事）そこは、このビジョンの内容も踏まえながら検討してきました。

会長）令和 4 年度からビルドを意識された予算が編成されるということで安心しました。

知事）そこはもちろん意識してきました。スクラップによって生み出された財源を新たな事業に振り向けていくことで、スクラップ＆ビルドを進めていく。そのベースになるのがこのビジョンであるということです。

司会）そろそろお時間ですので、以上をもちまして、長期ビジョン審議会答申手交式を終了します。ありがとうございました。

（以上）